

2 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標の達成度

事業対象の貧困女性が女性グループの活動により収入を得る機会をもち、収入が向上する。
【第2年次達成度】 事業対象者の女性 920 名が収入を得る機会を持ち収入を向上させた。第3年次では継続的に収入を得る機会を持ち向上させられるよう体制を構築する予定である。
【今期達成目標】
 4 郡の女性グループ (45 グループ→46 グループ) において積立貯蓄の増加により、メンバー個人の収入創出活動に対して貸し出しが可能になり、メンバー全員が収入を得る機会を持つことができる。
【達成度】 第1年次ではウバ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡において収入創出活動を実施、第2年次ではベレタ郡とバガラ郡で収入創出活動を開始した。結果、女性グループに参加している 920 名 (46 グループ) 全員が収入を得る機会を持つことができた。

(2) 活動内容

2 年次は、主にベレタ郡及びバガラ郡において水供給設備を設置し、4 郡 (ウバ・ヤンバラ、カレ・マロ、ベレタ、バガラ) において、女性グループ (SHG) に対する収入創出活動研修とフォローを実施した。また、各郡において女性グループを取りまとめる「SHG 協同組合」を組織化した。変更届で提出通り、ウバ・ヤンバラ郡では活動に参加要望する女性 20 名 1 グループを新たに追加した。

		第1年次	第2年次前半	第2年次後半	第3年次
ウバ・ヤンバラ郡 及び カレ・マロ郡	ソフト	・女性グループ選出 ・各委員会発足 ・同体制構築 ・収入創出活動研修 ・収入創出開始	・近隣事業地訪問 ・収入創出活動研修 フォロー	4郡共通	4郡共通
	ハード	水供給設備設置			
ベレタ郡 及び バガラ郡	ソフト	・女性グループ ・各委員会発足 ・収入創出活動研修	・水供給事業体制構築 ・収入創出活動開始と フォロー ・近隣事業地訪問	・SHG協同組合研修 ・SHG協同組合設 立・体制構築 ・女性グループリー ダーズ研修	・水供給全体評価会議 ・収入創出活動フォロー ・女性グループのフォロー アップ研修 ・女性リーダー能力強化研 修
	ハード		・水供給設備設置		
報告書・マニュアル作成		・ベースライン調査	・中間データ収集 ・マニュアル作成開始		・データ収集・分析 ・マニュアル完成 ・セミナー開催

I. 収入創出活動の開始と展開

(ア) 4 郡における研修の継続実施

5 月にベレタ郡およびバガラ郡の女性グループに対して、「貯蓄の概念と計画性」、「ローンの管理」、「収入創出活動の計画」について研修を実施した。雨天のため遅延していた水供給設備建設に女性グループも協力を余儀なくされ、6 月に予定していた研修を延期し、7 月及び 8 月に実施した (合計 33 日分)。ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡においては、5 月に「コンフリクトマネジメント」、「収入創出活動の多様化」について研修を実施し、6 月に残りの科目を指導し全研修を終えた (5 日分)。また、ウバ・ヤンバラ郡では女性グループの活動に興味を持った 20 名の女性から女性グループへの参加要請があったため、1 グループを新規に形成し、そのグループに対して研修を実施した。

(イ) ベレタ郡及びバガラ郡における女性グループの収入創出活動開始

ベレタ郡およびバガラ郡の各女性グループが収入創出活動を開始した。またウ

バ・ヤンバラ郡とカレ・マロ郡の女性グループは1年次から継続して収入創出活動を行った。

(ウ) 4郡における各女性グループの収入創出活動へのフォロー

コミュニティー委員（現地住民雇用）とホープスタッフによる各女性グループの収入創出活動の進捗、積立貯蓄とローン利用状況の確認を行い、必要に応じてフォローを実施した。

(エ) 「SHG協同組合」の設立と体制の構築

各郡に女性グループの活動を取りまとめる「SHG協同組合」を設立した。

① トレーナー研修（3日間）

9月19日から9月21日にサウラ町にて、CoSAP (Consortium of Self-help-group Supporters Approach Promoters) のテスファイエ・テラファン氏を講師として迎え、4郡合同で研修を実施した。対象者は20名（各郡のSHGリーダー5名✖4郡、地方行政機関より6名）。

② リーダーズ（評価・モニタリング）研修（2日間）

12月および1月に、各郡のSHGリーダー及び郡役場の担当者に対してモニタリング・評価手法、グループとしての収入創出活動の実施と管理方法、SHG協同組合の運営や課題の取り扱い方、情報共有などについて研修を行った。

II. 住民参加型水供給設備の設置と水・衛生委員会など体制構築及びフォローアップ活動

(ア) ベレタ郡とバガラ郡における住民参加型水供給設備の設置

3月から6月にかけて雨天のため道路整備が難航し、建設計画が遅延した。住民と協議した結果、車両がギリギリ通行できるところまで建設資材を輸送し、工事現場までは住民の人手を集めて運搬することとなった。資材運搬を各世帯に担ってもらうよう、両郡で名簿を作成し、協力できない人に対しては150ブルの支払いを求めるなど、全住民が一丸となり運搬を行った。建設は計画より3か月程度遅延したが、源泉保護ボックス、貯水タンク、給水所、洗濯場を事業期間内に設置することができた。

	郡名	水源	貯水	給水所	洗濯場	パイプライン (km)	裨益者数
		ボックス	タンク				
2年次	ベレタ	1	1	9	8	5.3	1,548
	バガラ	1	2	12	10	4.82	1,674

(イ) ベレタ郡とバガラ郡における各委員会の体制構築と人材育成

ベレタ郡及びバガラ郡では、第1年次に発足した水供給施設の運営維持管理のための各委員会の体制強化を図るため、水・衛生委員会及び郡役人、教師に対して、水・衛生管理委員研修（8日分）を行った。また、8月に、住民から選出した10名のメンテナンスチームに対し、ベレタ郡では水供給設備工事の全体について、バガラ郡ではガラバ源泉保護ボックス、パイプ設置などの実地訓練を実施した。

水供給施設（給水所、貯水タンク、水源保護ボックス、パイプ）の中で、給水所の掃除や管理も担うSHGメンバー及びメンテナンスチームに、水供給システム管理研修（5日分）を実施した。

	ウバ・ヤンバラ郡	カレ・マロ郡	ベレタ郡	バガラ郡
水・衛生委員会	69名	47名	31名	37名
メンテナンスチーム	10名	10名	10名	10名
コミュニティー委員	10名	10名	10名	10名
			選出予定	

	ベレタ郡				バガラ郡				日数
	SHG	水管理委員	メンテチーム	郡役人など	SHG	水管理委員	メンテチーム	郡役人など	
水・衛生管理委員研修		69		10		47		10	8
水・供給システム管理研修	200	5	10		160	5	10		5

(ウ) ウバ・ヤンバラ郡及びカレ・マロ郡における水供給施設の管理・運営のフォロー

第1年次に設置された水供給設備の管理及び運営に関する住民の定期会議に、コミュニティー委員やホープスタッフが参加し、フォローを行った。

	<p>III. マニュアル及び報告書の作成準備及びモニタリングの実施</p> <p>(ア) 中間データの収集 4郡（ウバ・ヤンバラ郡、カレ・マロ郡、ベレタ郡、バガラ郡）の女性グループメンバーが、収入創出活動によって生活にどのような変化を経験したのか、積立貯蓄状況などを中心にデータ収集を行った。</p> <p>(イ) 女性グループマニュアル作成の開始 ホープスタッフのモニタリングオフィサーを中心としたマニュアル作成チームを形成し、マニュアル作成に着手した。</p> <p>(ウ) 現地行政機関による事業中間評価（1回） 南部諸民族州、ゴファ地方、オイダ地区の行政機関から各4名が参加し、事業の中間評価が実施された。</p> <p>(エ) 内部モニタリングの実施（4回） オイダ地区行政担当者及びホープスタッフの現地連携調整担当者（アディスアババオフィス勤務）とモニタリングオフィサーが、事業の進捗と成果を確認するために四半期ごとにモニタリングを実施した。</p>	
<p>(3) 達成された成果</p>		
	<p>達成された成果</p>	<p>成果を測る指標</p>
	<p>1. ベレタ郡及びバガラ郡の事業対象女性は毎日1~2時間費やしていた水汲みの重労働から解放され、他の活動に従事する時間を確保することができた。</p> <p>2. ベレタ郡及びバガラ郡の事業対象女性が水・衛生委員会のメンバーとして参画することによりコミュニティの女性に対する差別が減った。</p>	<p>指標①：ベレタ郡とバガラ郡において SHG メンバーの 40% に対して聞き取り調査を行い、そのうちの 90%が水汲みを往復 15 分以内で行えるようになる。（ベレタ郡調査対象 SHG80 人のうち 72 人、バガラ郡調査対象 SHG64 人のうち 57 人） 達成度：バガラ郡では、調査対象の 93.8%が家から往復 15 分以内で安全な水へのアクセスできるようになったと回答し、指標は達成された。その一方、ベレタ郡では、往復 15 分以内のアクセスが 57.5%、30 分以内が 31%となった。ベレタ郡は他の郡と異なり丘陵地で高低差が大きいことから、給水所までの距離はないものの 30 分程度要するが、安全な水へのアクセスは達成した。また、確保した時間を両郡共に収入創出活動（45%, 46%）、家事（38%, 32%）、家族との時間（7%, 15%）に利用している。</p> <p>指標②：SHG メンバーの 60%に対して実施したベースライン調査にて「女性として差別を受けたことがある」と、ベレタ郡（120 人中 120 人）とバガラ郡（95 人中 94 人）の女性から回答があった。2 年次の事業終了時に、SHG メンバーの 40%に聞き取りを行い「事業を開始してから差別が減ったと感じる」と回答する女性が 50%以上いる。 達成度：ベレタ郡及びバガラ郡において、144 人中 138 人（95.8%）が差別や暴力が減少したと回答したため、指標は達成された。</p>

	<p>3. ベレタ郡とバガラ郡において女性グループ（18グループ）のグループ収入創出活動の利益及び積立貯蓄によって貯蓄が増加した。</p> <p>4. ベレタ郡とバガラ郡において事業対象女性は急にお金を必要とする事態が発生したとき、女性グループのソーシャルファンドから借りることができた。</p>	<p>指標③：ベレタ郡とバガラ郡18グループにおいてグループの収入創出活動による利益と毎週の積立貯蓄によって、貯蓄開始時から貯蓄が1万ブル以上になる。 達成度：ベレタ郡及びバガラ郡女性グループの全グループが積立貯蓄と収入創出活動の利益及び利息などの合計が1万ブル以上となり、達成された。参考値としては、ベレタ郡(SHG10グループ)では、1グループの平均貯蓄額は10,692ブル、活動による利益及び利息平均21,882ブル。バガラ郡(SGH8グループ)は、1グループの平均貯蓄額は10,585ブル、活動による利益及び利息は1グループ平均23,748ブル。</p> <p>指標④：ベレタ郡とバガラ郡においてソーシャルファンドの積立がなされ、必要に応じ貸し出しがなされる。 指標⑤：ベレタ郡とバガラ郡においてソーシャルファンドの利用の申し出をして不当な理由で貸し出しを断られたSHGメンバーがいない。 達成度：ソーシャルファンドは、グループの助け合い基金として、ベレタ郡では1グループ平均8,272ブル、バガラ郡では1グループ平均6,925ブル積立されている。主に冠婚葬祭の支出が必要な場合や収入創出活動で失敗しローン返済ができなくなった場合などに、グループメンバー全員の承認を得てソーシャルファンドが利用されている。どのグループにおいてもメンバーの相互扶助のために利用されており、不当な理由で貸出を断られておらず目標は達成された。</p>
	<p>6. 4郡に各「SHG協同組合」が設立されることにより、女性グループの課題を吸い上げ、共通の課題に対し協働し解決できるようになる体制が整う。</p>	<p>指標⑥：4郡にて「SHG協同組合」が設立された後、各郡の女性グループのリーダーが集会を定期的（2ヶ月に1度）に開催され、共通課題が共有され解決策が協議される。 達成度：4郡いずれの「SHG協同組合」も2ヶ月に1度定例会議を開催しており、指標は達成された。</p>
	<p>7. 4郡の女性グループに参加している女性たちが個人の収入を得るようになる。</p>	<p>指標⑦：4郡の女性グループメンバー（900人）のうち30%（270人）が収入を得るようになる。 達成度：女性グループメンバー900名全員が収入を得ることができたと回答し、指標は達成された。収入創出活動で得た収入は、主に、子どもの学用品（ノート、靴、制服など）や家族の服の購入、収入創出活動の拡大のための資金として使われていた。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>ベレタ郡及びバガラ郡において水供給施設が設置された。水使用料の徴収、帳簿管理など維持管理に必要な研修を受けた水管理委員会が運営を担っている。徴収された水使用料金は、銀行に預けられ、郡役場の承認がないと銀行から出金できない仕組みとなっている。また給水所の掃除は当該給水所を利用する近隣世帯が担当し、給水所を利用できる時間帯も規定され、利用時間外は柵に施錠して管理している。水質については郡政府が半年に一度行うことになっており、また、破損パイプの修理などについては設置時に実地訓練を受けたメンテナンスチーム（住民）が行う予定である。</p> <p>また女性グループは、毎週定期的に集会を開催し、継続して貯蓄を行い、そのグループ貯蓄から借入して収入創出活動を行っている。貯蓄は、2つの鍵で施錠した手提げ金庫と銀行預金にて管理している。銀行から出金する場合は、女性グループメンバー2名分の顔写真が貼られた通帳と2名のサインが必要な仕組みとなっている。また事業2年次からは、出金時にはホープスタッフに銀行から連絡が来るようになっており、不正が起こらない仕組みづくりがなれている。また、女性たちが収入創出活動で得た収入は、子どもの就学に</p>	

	<p>必要な費用や事業の拡大などに使われている。収入を得ることで女性たちに自尊心が芽生え、コミュニティ内での女性蔑視も軽減されつつある。ホープによる事業終了後も女性グループの活動が継続、そして拡大していくために4郡においてそれぞれ「SHG 協同組合」が組織化された。第3年次には、4郡の「SHG 協同組合」を束ねる「女性連合会」を組織化し、女性の権利の向上や収入創出活動の活発化のために、大学や地方政府などから委託業務を受託できるような組織づくりを計画している。</p>
--	---